



# 吉高人権だより

2020年 9月号

愛媛県立吉田高等学校 人権委員会発行

誰かのおかげで、誰かのために

地理歴史・公民科 有田 真之介

私の思い出に残っている食べ物は、祖父が作ってくれた豆腐です。祖父は生まれながらにして右手を自由に動かすことができません。文字を書くことはもちろん、箸を使って食べることも他人より倍の時間がかかってしまいます。そんな祖父が続けていた仕事が豆腐作りです。夜明けから仕込みを始め、暑苦しい熱気の中で黙々と豆腐を作っていました。私が小学生の時に祖父の家に行った際、豆腐の配達を手伝い、配達に行く家の方から「〇〇さんの孫ね、大きくなったね」と、かわいがってもらっていました。そして、配達後に祖父の手間暇込めた豆腐を食べることが楽しみでした。

先日、豆腐を食べていた時に、豆腐を配達していた頃を思い出しました。私がよくかわいがってもらったのは、まぎれもなく祖父のおかげです。祖父は日頃から地域の方々に慕われ、時には助けてもらい、時に支えあう関係を築いていました。そこには「〇〇さんのおかげで、〇〇さんのために」という関係があったと考えられます。

私たちが生きている社会は、「〇〇さんのおかげで、〇〇さんのために」といった感謝と恩返しに満ちているのでしょうか。昨今、新型コロナウイルスの感染拡大によって、他者との密接な交流が避けられるようになり、感謝や恩返しといった考えが薄れてきているように感じます。ましてや、人間の心に潜んでいた弱い部分が露わになり、ウイルスと闘っているはずなのに、対象を感染者や関係者等にすり替え、募った不安や不満を解消するために誰かを傷つける内容のニュースも報道され、それを見るたびに、同じ人間として情けないと思えてなりません。

このような世の中だからこそ、誰かのおかげで今の私がいるという感謝の心を持ち、誰かのために私ができることは何だろうと考え、実践していくことこそが、すべての差別をなくそうとするわたしたちに必要なことではないでしょうか。

## 人権委員会夏季研修会

8月18日(火)に、本校会議室で人権委員会夏季研修会を行いました。西予市で読書会と同和問題をはじめとする様々な人権問題学習に取り組まれている「たんぼぼ読書会」の皆さん8名に来ていただき、学年ごとのグループに分かれて「たんぼぼ読書会」の方が実際に体験された結婚差別のお話や、差別に対する思いを聞きました。人権委員も自分の思いや考えを率直に話し合うことができ、有意義な研修会になりました。



### 《人権委員の感想(3年生)》

- ・今日の研修会で学んだことは、差別に対して向き合える力をしっかりと持つことが大切ということです。そのためにもこのような会に参加することはとても大事なことだと思います。人権委員の私たちが、積極的に考えて、行動してみることが大事だと改めて感じ取ることができました。
- ・私は、結婚差別について実際に差別を受けた方の話を聞いたのは今回の研修会が初めてだったので、学ぶことがたくさんありました。その中で一番心に残った言葉は「差別を受けた時一人でも話を聞いてくれて一緒に闘ってくれる人がいれば嬉しい」という言葉です。私は周りの意見に流されることがほとんどで、目の前でおかしいと思うできごとがあっても見て見ぬふりをしてしまうこともありました。しかし、今回お話を聞いてこのままでは絶対だめだと改めて思うことができました。今日からは、自分の意見を飲み込まず、積極的に発言できるように心がけたいと思います。そして、一人でも多くの人の心に寄り添えるような人間になりたいと思いました。
- ・今回の研修会では体験談を語っていただき、差別は身近にあるのだと感じました。そして、自分の周りで差別があったときに注意できる人になりたいです。そのためにはもっと正しい知識が必要だと思うので、正しい知識をしっかりと身に付けたいです。

### シトラスリボンプロジェクトを広めよう！

シトラスリボンプロジェクトとは、愛媛の団体「ちょびっと19+」が、新型コロナウイルスの流行により感染した方、医療現場で働く方たちなどが暮らしにくいことが起きている中、誰もが差別されることなく「おかえり」「ただいま」を言いあえるまちをめざして始めたものです。愛媛の柑橘をイメージしたシトラスカラーのリボンの三つの輪は地域・家庭・職場(学校)を表しており、リボンを身に付けたり、贈ったりすることで、このプロジェクトへの賛同の意思を表します。



<御意見・御感想をお寄せください>